

陽気だより

養徳社 検索

No.3 2007.6.15

創刊号から

「陽気」は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60周年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事からふり返っていきます。

エンタツ さあ、着いたで。
アチャコ ここが大和の丹波市か。

エンタツ そうや。有名な天理教の都——これがこの世の極楽や。

アチャコ この沢山の降りる人、みんな信者か？

エンタツ その通り。あの出迎えの旗を見てみい。

アチャコ 沢山の旗で、賑やかな出迎えやな。

エンタツ それに、あの旗の印が一つ

一つ、淡路とか高知とか、違うてるのに気が付かんか。

アチャコ 成程。

全国各地から有難いこの世の極楽へ、信者は続々とお詣りに来ると言う訳か。

エンタツ ところが、来る訳には違いないが、それをここ

では、来るとは言わん。

アチャコ じゃ、どう言うのや？

エンタツ よう覚えとけ、帰ると言う。

アチャコ ふウン、来るのが帰るやつたら、往復とも帰るで、復復になるやないか。

エンタツ そのはずで、だから信者は誰でも丹波市へ来ると、心の中がフクフクしうなると言うてる。

アチャコ そら、福福しいやないか。

エンタツ とにかく、全国の



信者はこうやって賑賑しう丹波市へやって来ることを、お地場詣りと言うて、楽しい念願にしている。

アチャコ すると、今日は特別の日と見えて、えらい若い信者が多いな。

エンタツ 何で、それが特別

や？

アチャコ だって、君は今、お爺婆詣りと言うたやないか。

エンタツ 違う、違う！ オダイ・ババやあらへん、お地場！

アチャコ そら、何のことや？

エンタツ つまり、お地場と言うのは天理教の生れた聖地

と言う意味で、この聖地へ信者はみな心の「ほこり」を洗い

アチャコ ちよつと待った。その「ほこり」って一体何や？

エンタツ 俗に言う罪とか穢れとか、心から掃き清めんならんものが八つある。

アチャコ それは何々や？

エンタツ それは欲しい、惜しい、可愛い、憎い、怨み、腹立ち、慾、高慢

——君は全部一揃え持つてる。

アチャコ ひとつのこと放つと

け。

（以下略）

横山エンタツ・花菱アチャコ
昭和初期、「色もの万歳」をしゃべくり漫才「に変えた近代漫才の元祖」

新・おちば参替・余話

今から六十年ぐらい前のことである。

戦争前の献灯は竿の先に陣笠のような雨除けがついていて、一灯ごとに一本ずつソクを立ててマツチで火をつけて回った。風があると、一度でつかないから大変だ。各

詰所とも献灯担当の怖い先生がいて、全員が二個ずつ小脇に抱えて運ぶ。多いところは

リヤカー、荷車を使っていた。夕づとめの時間の間、一本のソクがちようどよく燃

えるように太さも決まっていた。一本の献灯がきちんと立てられるようになるには中

学一年生（旧制）からはじまって三年生くらいまでかかる。

黒門を中心とした野原の広場だから、ぼやぼやしている

と火事場騒ぎが起こる。そうなるのと引率の先生よりは四、

五年の中学生で、柔剣道部の猛者が睨みが利く。日ごろ仲

の悪い奴の献灯台をこっそり近づいて蹴飛ばすのである。

立てたソクが飛びはねて倒れると提灯が燃え上がる。

先生からどやしつけられる。

魂の理、生まれ替わりのこと

「先年、前の家内を出直しさせた時にその人は妻を愛するあまり無性に悲しく、土に葬つてしまうのが惜しくてならんで、かねてお道では魂は生まれ替わると聞かせてもらっているから、一つそれを試してみても、もし本当に生まれ替わってくるようななら、これほど嬉しいことはない、そこでいつも家内が使っていた白粉を亡妻の臍に塗って葬ったのです。そして後年、今の家内を貰い、その人が妊娠して、いよいよ出産という時に、隣の部屋に控えていたところ、ホギヤと赤児の泣き声をする。やれやれ生まれてくれたと悦びが湧いて来かかった時に、産室から産婆さんの大きい頓狂な声がひびいてまいりました。

たように、お臍が真白やッ

はッ！ とその方は身体の慄えが止まらなかつたそうです。しかしそのことは誰にも一言も喋らなかつたのです。が、その児が五つ六つになつたころから、親の言うことは一つも聞きません。殊に母親に反抗して、ほとほと手古摺っている始末でしたので、そこで思いきって、経緯を初めて後妻の方に明かされました。そして、

「だからこの娘は私の前の家内やと思うて、その気で大切に育ててやってくれ」と頼んだのです。後妻の方もそれ得心してその気になりましたところ、どうもならなんだ娘が急に穏しくなつて、よく母親にも仕えるように変わったのです。そして今はその娘は、前の家内の生まれ里の家へお嫁入りしているのです」

「おや、こんな児は見たことない。まるでお白粉でも塗つたよ」
・道友社新書より

ものはげ 出題「嬉じらものは」(「陽気」創刊号より)

ぬかるみのアベック
お地場帰りの団参列車
見つけた公衆便所
活字になった自分の作品

道の教え子の受訓の日
初めて結った高島田
税務署の火事
すべてでころんで拾った財布

インフォメーション

講演会CD 発売中!

「陽気読者講演会」(さあ、これからや・植田与志夫)の録音CDを発売しています。80歳の今も韓国・台湾で布教に励む植田氏の熱誠あふれる話に、燃えること間違いなし。余談ですが、CDジャケットの後ろ姿のカットは、植田氏ご本人がモデルなんです。(定価1,260円 送料150円)



講演会CDは、他にも「笑い与健康・村上和雄」「生き方が病気を決める・今中孝信」「家族のきずなを考える・宮崎伸一郎」などがあります。

好評です

『生き方メッセージ』(松宮守著 新書判・232頁 定価1,840円)は、人の動きや思いを、さまざまな視点から書

き綴ったエッセイ集。『気づき』を与えてくれる一書です。



復刊のお知らせ

平成三年一月に出版した松田武信著(旭園分教会前会長)『歩いただけが道』を八月中旬に装丁も新たに復刊します。静岡、東京、大阪、そして四国松山へと、おしどり夫婦が歩んだ汗と涙の単独布教記録です。ご期待ください。

理でつながる親子の絆

松井忠義氏(明城大教会二代会長)と篠田寛一氏(龍分教会初代会長)の三十年にわたる往復書簡。血の通い合う親子の姿に、思わず唸ります。(四六判上製 定価1,470円)



※ご購入は、おちばの各書店でお求めくださるか、直接当社へご注文ください。(電話0743・62・4503)

養徳社 よもやま話

★60代から環境問題に関心をもち、市民大学で講座を企画して活動している旧知のようぼくの方から、「養徳社は、省エネなど、何か取り組んでいる？」と聞かれました。社内の印刷に裏紙を使用していますが、ほかに取り立ててないような……。まずは自分がつけた電気は小まめに消す、水道の水を使いすぎない、というところから、改めて意識を培っていかうと思います。

「業務部よりお知らせ」

『陽気』誌は、同月号を10冊以上ご購入くだされば、送料が無料になります。ご存知でしたか？

最近、当社に初めてお立ち寄りになったお客様が、10冊以上なら送料無料で知って喜んでお申し込みくださいました。私たちにもうれしい出来事でした。また、『陽気』を読んだことがない方のために、見本誌をお送りするサービスもご用意しています。ぜひ、ご利用ください。

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

養徳社